



図 1

推進講座第一部の講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン」



図 2

推進講座第一部のワーク

講義の途中に、色弱者の見え方を色弱模擬フィルタ（バリアントール）をかけて体験するワークが入る。50 色の色紙を 5 種類に分類した後で、バリアントールを外して見ると、見分けにくい色の組み合わせを実感することができる。色弱当事者の講師も分類を行う（右端）。

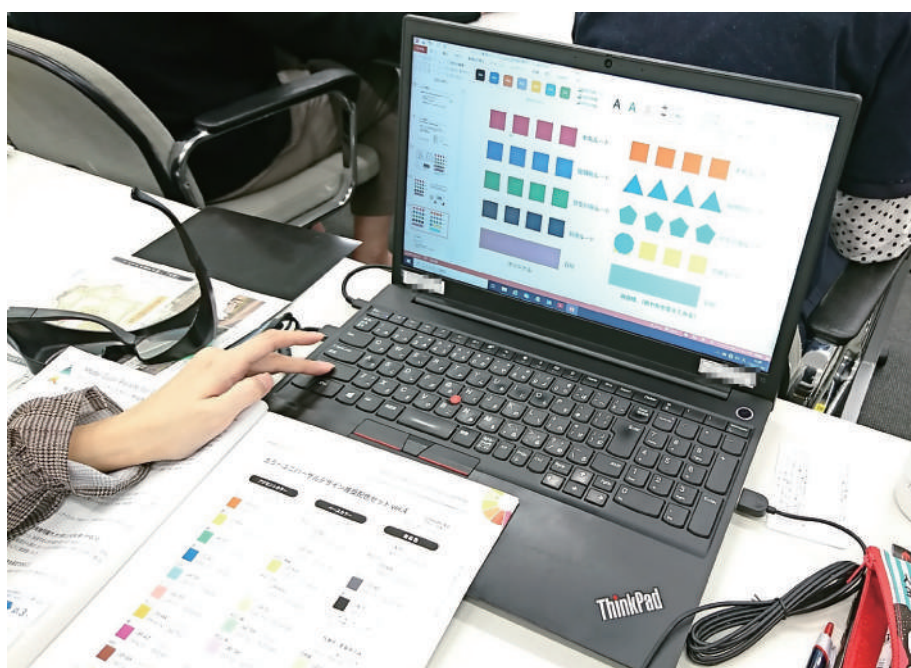


図 3

推進講座第二部のワーク

「岡崎城跡石垣めぐり」（岡崎市教育委員会社会教育課発行、2018）のマップに使われていたコースの色分けを、色弱者に見分けやすい組み合わせにするワークを行った。色情報だけでなく形を変える工夫も見られた。



図 4

推進講座第一部の講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン」開始前の様子



図 5

推進講座第二部のグループワーク
各部署で作成した広報誌、チラシや地図等をカラーユニバーサルデザインの視点から見直し、気づきを共有するワークを行った。
色弱当事者の講師が、見分けにくい色づかいがされている箇所を示しながら、どのように見えるかを説明していく。当事者との交流によって理解が深まり、ありがたいとの声がアンケートでも多数寄せられた。



図 6

推進講座第二部のグループワーク
最後にワークで得た気づきを全員で共有した。全グループが、実際に印刷物を掲げて示しながら、改善すべき点や誰にとっても見分けやすい配色等について説明した。



図 7
推進講座第一部の講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン」



図 8
推進講座第二部のグループワーク
各部署で作成した広報誌、チラシや地図等をカラーユニバーサルデザインの視点から見直し、気づきを共有するワークを行った。ワーク中は講師らが島になったテーブルを回り、参加者と話し合い相互に理解を深めていく。



図 9
推進講座第二部のグループワーク
最後にワークで得た気づきを全員で共有した。



図 10
推進講座第一部の講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン」



図 11
推進講座第二部のグループワーク
見分けやすい 5 色配色をグループで考えるワーク。終了後に 2 つのグループによる配色を皆で確認した。第一部の講義で得た知識を再確認する機会にもなっている。



図 12
推進講座第二部のグループワーク
各部署で作成した広報誌、チラシや地図等をカラーユニバーサルデザインの視点から見直し、気づきを共有するワークを行った。



図 13
推進講座の第一部「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン」の講義



図 14
推進講座第一部のワーク
色弱模擬フィルタ（バリアントール）をかけて
50 色の色紙を 5 種類に分類するワーク。色弱者
が混同しやすい色を知るのに効果的であり、当会
によるカラーユニバーサルデザイン推進のワーク
ショップでは必須のプログラムとなっている。



図 15
推進講座第二部のでワーク
5 本の折れ線グラフの配色を考えるワークを行っ
た。あらかじめこちらで用意したモノクロの折れ
線グラフ（パワーポイントのスライド）の色を、
見分けやすい 5 色に変更してもらう。『カラーユ
ニバーサルデザイン推奨配色セット』を参考にす
る参加者も多い。